

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第21号】

発行人 玉川隆雄

事務局 長野市西長野6ノロ

信州大学教育学部内

TEL・FAX (026) 238-4370



第二十回総会を迎え さらなる発展・充実を

同窓会会長 玉川隆雄

昭和六十二年八月十一日に設立総会が開かれた本同窓会が、まもなく第二十回通常総会を迎えようとしています。これもひとえに本会の設立やその後の活動に御尽力くださった皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

さて、平成十六年に大学が法人化されました。また、教育学部のみならず信州大学の全教職員の皆様は、運営や組織についてのいろいろな改革をされ、大学法人としての体制づくりに励んでこられました。

ところが、先日、次のような新聞報道がありました。財務省が財政制度等審議会に国立大学への補助金（運営費交付金）について、従来の配分方法に競争原理を加味した試算を提示した、というものでした。その試算によると、増えるのは一部の大学だけで、全大学の八十五%にあたる七十四大学が減額になり、さらに、信州大学を含む五十の大学が本年度

に比べて五割以上の減額になる、というものでした。試算とはいえ、衝撃的な内容でありました。これが本当に実施されたら、大学・学部は、どうなるのでしょうか。私たちは、大学・学部を取り巻く状況の推移をこれからも注視しつつ、どのように支えていけばよいのか、同窓会に何ができるのか、などを検討していかなければならないのではないのでしょうか。

ところで、話は変わりますが、役員をさせていただく中で、何人かの民間企業の社員や公務員として活躍されている同窓会の方々にお会いする機会がありました。仕事上のご苦労や仕事のやりがいや喜びなどをたいへん楽しくお聞きしました。そして、いろいろな分野で活躍されている同窓会員がおられることを本当にうれしく感じました。こういう方々も含めて、もっと会員同士のつながりを深め、全会員の心のよりどころになる同窓会にしたいものである。

ります。

さて、記念すべき第二十回通常総会を間近に控え、本同窓会のますますの発展・充実を期したいと思います。そして、会員の皆様にいっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

岩永恭雄氏が新学部長に就任

岩永恭雄氏が信州大学教育学部部長に就任しました。任期は、平成十九年四月二日から平成二十二年三月三十一日です。岩永氏の略歴と研究分野を紹介します。

〈略歴〉

- 昭和二十一年・東京都目黒区生まれ
- 昭和四十四年・東京教育大学理学部卒業
- 昭和四十六年・東京教育大学理学研究科修士課程修了
- 昭和四十六年・東京教育大学助手（理学部）
- 昭和五十年・筑波大学講師（数学系）
- 昭和五十四年・理学博士（筑波大学）
- 昭和五十六年・信州大学助教授（教育学部）
- 平成二年・信州大学教授（教育学部）
- 平成十八年・教育学部附属教育実践総合センター長
- 平成十九年・信州大学教育学部部長

〈専門分野と研究テーマ〉

- 一 非可換ゴレンスタイン環とその上の加群ホモ代数学（環論）
- 二 ロジエ代数的性質の解明
- 三 有限次元多元環の構造と表現論
- 三 加群の交換子環の構造解明

第十九回 同窓会 通常総会 報告

平成十八年度の通常総会は、定例の八月十一日（金）、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、三十七名の出席者を得て開催された。

山崎芳實幹事の進行のもと、糟谷房枝副会長の開会宣言、玉川隆雄会長の開会挨拶に続いて、議長団に寺島正友・水内エツ子、議事録署名人に西村健治・小原貞幸の各氏を選任、書記に岩田靖・酒井英樹の各氏を任命して議事に入り、次の三議案が審議された。

○第一号議案

平成十七年度事業報告、歳入・歳出決算報告及び財産目録の承認について

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成十七年度事業について、齊藤忠彦幹事より平成十七年度歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がなされ、また、清水厚実監事より適正に処理されているとの会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

○第二号議案

平成十八年度事業計画（案）及び歳入・歳出予算（案）の承認について

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局長より平成十八年度事業計画（案）について、齊藤忠彦幹事より平成十八年度歳入・歳出予算（案）についての説明があり、原案どおり全員一致でこれを承認した。

〔平成十八年度事業大綱〕
一、同窓会報（第二十号）発行、会員・入会者への発送

二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助

三、学部支援 教育学部・大学院充実にむけての援助

四、組織充実 支部組織の強化、他

五、長期構想 「信州大学同窓会連合会」の推進、総会のあり方・基本財産の運用、事務局電算化の推進と個人情報保護

○第三号議案

役員の交代について



記念講演会 坂本正夫氏



第19回同窓会通常総会 会長挨拶

平成17年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成17年4月1日
至 平成18年3月31日

歳入合計額 6,258,505円也
歳出合計額 5,587,632円也
差引残額 670,873円也 翌年度へ繰越

歳入の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	772,405	772,405	0	
2 会費	5,780,000	5,460,000	△320,000	273名入金
3 雑収入	20,000	26,100	6,100	利子・御祝儀
歳入合計	6,572,405	6,258,505	△313,900	

歳出の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	600,000	316,076	△283,924	総会・役員会等
2 事業費	1,090,000	1,000,381	△89,619	会報・学部後援等
3 事務費	2,485,000	2,314,305	△170,695	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,806,000	1,806,000	0	雇用費等
5 雑費	150,000	150,870	870	連合会会費・謝恩会御祝儀等
6 予備費	441,405	0	△441,405	
歳出合計	6,572,405	5,587,632	△984,773	

玉川会長より会計監事の交代について諮られ、矢嶋直徳監事に代わって、竹松徳門会員が新たに承認された。
議事終了後、臨席の北條舒正氏（千曲会理事長）・赤羽貞幸（教育学部長）より祝辞をいただき、吉原鉄男副会長の閉会宣言で総会を終了した。

ご挨拶

教育学部長

岩永恭雄



深く感謝いたします。

私こと、この四月から教育学部長に就任致しましたが、様々な課題・問題が噴出して、その対応に追われた二ヶ月でした。これからは、時代の要請に対応できる教育学部の在り方を視野に入れた将来構想の検討に取り組み所存であります。

具体的には、教職大学院設置の可否を考慮に入れた現行の教育学研究科大学院の改組、教科教育と教科専門とのバランスの取れた教職カリキュラムの充実、教育学部施設の改修、附属学校園の在り方などが掲げられます。また、当面の課題として、教員免許の更新制の導入と、教員としての資格を大学が保証する授業「教育実践演習」への対応、本学部および大学院への受験者の増加を図る施策、そして本学部卒業生の教員採用数を増やす効果的な施策などがあります。さらに、予算獲得という面からは、文部科学省を含む政府関係機関が公募する様々な事業に申請して、いわゆる競争資金を獲得する必要があります。

同窓会員の皆様にとつての最大の関心事は、教員採用の状況であると推察します。首都圏にある教員養成系学部卒業生の教員採用状況は増加の傾向にあるのに反して、長野県では来年度の公立学校の教員採用予定数が小学校は百十名、中学校は四十名と予

定されており、たいへんきびしい状況にあります。今後は、長野県外に教員採用の道を開く必要があり、学生にも応募を勧めるなど、就職活動を支援する体制を充実しなければなりません。

学部での教職教育に関しては、一年次生から「臨床教育基礎」という授業があり、附属松本学校園を利用して、早い段階から児童・生徒との交流を経験する場が設けられ、非常勤講師による「いじめ・不登校」の問題を取り上げる授業も開講されるなど、教育実践を重視して、松本キャンパスでの一年間の勉学が、長野キャンパスに移行してからの二年次以降の教職教育へ円滑に継続される工夫をし、本学部の理念である「臨床の知」の実現に努力しています。また、教科専門の講義に関しては、昨年度から松本キャンパスでの「共通教育」が充実されて、二年次以降の教科に関するより専門性の高い講義への基礎を与える講義が多く開講され、本学部の多数の教員が松本キャンパスで講義を担当しています。

教育学部教員の研究面に関しては、科学研究費の他、外部資金を獲得するために、複数の教員がチームを組んで、政府関係機関が公募する様々な事業に応募しております。昨年度までは、文部科学省が公募した「教員養成推進プログラム」(教員養成GP)が実行され、大きな成果をあげたところです。また、昨年度採択された「新教育システム開発プログラム」は今年度に継続されている事業ですし、「英語指導力開発ワークショップ」が今年度採択されました。現在は、来年度に向けて「発達障害のある大学生への支援プログラムの構築」(学生支援GP)、「問題志向のコースワーク再設計と夜間開講」(教員養成GP)、「授業研究アリーナで共創する臨床の知」(大学院GP)などのプロジェクトを申請中です。これらが採択されれば、その実施には多くの教員の参加によって、期待される成果をあげなければ

なりません。そのあかつきには、本教育学部の実力が高く評価されることになり、大学外の委員による「外部評価」に良い影響を与えることとなります。大学へ配分される運営交付金の配分方法が成果主義に向かう時代になり、本学部教員も、このような教育学部の特質を活かせる事業に取り組む決意であります。

全国の教員養成学部は、政府の教育政策に対応する体制作りと、研究・教育のための予算獲得に奔走しており、教員にかかる負担はこれまでより極端に増加しています。しかし、教員養成という重要な役割を果たすために、多くの教員が奮闘していますので、これからも同窓会および同窓会員の皆様のご支援をお願いするものです。



外壁その他改修工事の完了した教育学部北校舎

学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成十八年度〜平成十九年度新転任教員】
山本亮介先生(言語教育講座)

日本学術振興会特別研究員(PD)より新任

三崎 隆先生(理数科学教育講座)

北海道教育大学(釧路校)より新任

天谷健一先生(理数科学教育講座)

北海道大学より新任

高崎禎子先生(生活科学教育講座)

首都大学東京助教より新任

【平成十八年度転退職教員】

川村康文先生(理数科学教育講座)

平成十五年八月一日着任、退職(転任)

角尾篤子先生(生活科学教育講座)

平成四年四月一日着任、退職(転任)

堀井謙一先生(言語教育講座)

昭和五十年四月一日着任、定年退職

市澤要三先生(言語教育講座)

昭和五十八年四月一日着任、定年退職

巽 勇吉先生(理数科学教育講座)

昭和五十八年四月一日着任、定年退職

守 一雄先生(教育科学講座)

昭和五十七年四月一日着任、退職(転任)

山崎保寿先生(教育科学講座)

平成十年四月一日着任、退職(転任)

学部の近況から

エコキャンパスづくりへの取り組み

教育学部教授

エコキャンパス委員会

委員長 鵜 飼 照 喜



本学では、平成十六年八月の理事会で、全学を挙げてISO14001の認証取得に取り組むことが決定され、本学部が平成十七年度中に認証取得するよう学長から指示された。これを受けて、教育学部では直ちに態勢づくりと活動方針が定められ、エコキャンパスづくりの活動が始まり、同年十月にはエコキャンパス委員会が活動を始めた。

この点を含め、本学全体の取り組みについては、すでに本紙第十九号(平成十七年七月七日発行)で赤羽学部長(当時)が述べておられる。

本学でISOの認証取得を目標とするについては、すでに平成十三年度に工学部が単独でISO14001の認証を取得し、エコキャンパスづくりに取り組んできた。この活動は全国の国立大学(当時)では最初の取り組みであり、全国から高く評価されてきた、という背景がある。又、平成十六年、十九年の二度にわたり更新審査を受け、工学部のエコキャンパスづくりは一段と、高度なレベルに達している。

こうした実績を持つ工学部関係者の指導により、本学部では、平成十七年十二月には認証取得を達成し、翌平成十八年一月には、記念行事を開催するこ

とが出来た。

また、本学部に続いて農学部、繊維学部が平成十八年度に認証取得し、松本地区にある本部等部局も「本丸」として今年度七月に認証取得を目指して、活動している。

ところで、ISO14001は、元々製造業での生産活動において、自然環境への負荷を少しでも軽減するための環境管理システム(EMS)である。我が国の産業界では、いち早く家電業界で、認証取得活動が始まり、現在では同業界のみならず、ほとんどの製造業で大半の大手企業が認証取得済みである。

こうした流れの上で、産業界では大手企業から中小企業への認証取得への取り組みが広がり、あるいは流通業界、さらには行政機関とりわけ地方自治体での認証取得への取り組みが進んできた。また、学校ISOという言葉が今日では使われることが示すように、学校でのISO認証取得の活動がすすんでいる。この点で、本学部でEMSを認証取得し、I



ISO 学生ミミズコンポスト

ISO 学生委員会や内部監査活動に取り組んだ学生を教育現場に送り出す社会的意義には大きなものがあると自負している。

さて、本学部でのEMS 認証取得への取り組みでは、工学部からの指導を受けつつも、学部組織の相違や、専門性の相違などから大小様々な工夫が必要であった。さらには、前述のように、EMS の求める活動が本来は製造業の世界を対象にしたものであるところから、工学部以上の工夫が必要であった。

けれども、教育学部全体の取り組みによって、高い評価を受けて無事認証を取得することができたと同時に、大きな課題を与えられた。

それは本学部が教育学部であることによる、「本業」教育活動そのものにおける環境貢献を強く求められたことである。これまで繰り返し述べたように、EMS は製造業による環境負荷を軽減するための管理システムであるため、工学部のような製造活



ISO 学生ゴミ分別

動に直結する学部の場合は、企業と大学という相違はあるものの、個別の環境負荷軽減という課題自体には、共通するものが多い。

しかし、教育学部にはそうしたところが、きわめて少なく、省エネ・リサイクル活動という環境負荷の軽減という点ではどこでも求められるものにはすぎないと考えられる。もとより、小規模とはいえ、理科室や技術系、さらには美術系にはそれぞれ特有の薬品処理等の課題があり、それらへの対応が求められることは言うまでもない。

こうした要求に加えて、認証審査過程で本学部に求められたのは、「教育学部だから」、あるいは「信州大学教育学部だから」という言葉で、「教育学部の本業における環境貢献」であった。

EMS に限らず、環境活動は生産過程のみならず、消費過程でも「環境負荷の軽減」から始めることが一般的である。しかし、EMS の認証審査で本学部に求められたのは「環境貢献」であった。つまり、生産・消費活動あるいは研究教育活動での「マイナス」を軽減するだけでなく、「環境貢献」という、教育活動において「プラス」を生むことが強く求められた。

この点では、本学部ですでに平成十一年度の学部改組の際、カリキュラムユニットとしての「環境教育分野」が発足し、試行錯誤しつつも環境教育の実践とそれに関わる研究が進められていたこともあって、EMS の「環境方針」に掲げる「環境教育とそれに関する研究の充実」の条件が、ある程度整備されていたことは幸いであった。また、EMS の求める「目的」の第一に環境教育の充実を掲げていたことも当然であった。こうした課題は、教育学部内では環境教育分野へ参加する教員が近年徐々に増加しつつあることで、ある程度見通しを立てることができ



ISO 学生定例会

その上、大学全体の「地域貢献」が求められるようになってきた今日、「環境貢献」は「環境貢献＋地域貢献」という課題となってきた。こうした状況で、本学部のEMS では、環境教育部会の中で当初から「目的」の一つとしてきた「地域貢献」を、独立した「地域貢献部会」で取り組むことになり、今年度から取り組み始めた。

ここでいう「地域」とは、広義では学校関係にとどまらず、一般社会の環境活動に貢献することであるが、当面は学校関係からはじめ、学校現場での環境教育への協力、さらには前述の学校ISO の進捗にあわせた活動が考えられる。

この点で、本学部卒業生の方々との、より一層の連携とご協力が必要となることは明らかです。末尾ながら、本学部のEMS 運用と環境教育・地域貢献に、今後のご理解とご協力をお願い申し上げます。

同窓会情報

教育学部同窓会・研究補助事業について

平成十五年度より、教育学部同窓会の研究助成事業の一環として、二十一世紀の教育を指向した、会員の日常の教育研究・教育実践活動を支援していく「研究補助」制度を実施しております。研究補助制度の周知のために本号でもお知らせいたします。研究補助制度の主旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にしたい、自らの授業改善に努めよう、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨き合おう、③教育の振興・改善をとともども共有しよう、というところにあります。対象者は、信州大学教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者一律に一万円を補助するものです。

応募希望者は所定の様式（「研究補助願及び研究概要」）にしたがって、同窓会事務局（〒三八〇―八五四四 長野市西長野六―ロ）に申し込み下さい。当該年度の十一月末日を応募締め切りといたします。応募規定などの詳細は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせ下さい。これは、研究補助は十名までとなっており、受付可能かどうかを確認するためです。

次に掲げたのは、事業開始より四回目にあたる平成十八年度における補助金交付者並びに研究テーマに関する一覧です。これらを参考にしてください、積極的なご応募をお待ちしております。

平成十八年度補助金交付研究テーマ

- ① 勝野ゆう子（山ノ内町立南小学校）
「折り紙の中にひそむ数理を、どのように教材化したらよいか」
- ② 太田智明（中野市立中野平中学校）
「『やらせる・やらされる』掃除からの脱却！児童・生徒が自ら進んで取り組むようになる清掃指導はどうあったらよいか」
- ③ 布谷孝浩（長野市立柳原小学校）
「絵本の読み聞かせから広がる活動の実践的研究」
- ④ 武居三男（下諏訪町立下諏訪南小学校）
「子どもの願いを大事にした物づくりを中心に自然を探究できる理科学習にするための教材の開発」
- ⑤ 宮坂久美子（長野市立真島小学校）
「英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」学級担任による英語活動の試み」
- ⑥ 岡部温樹（木島平村立木島平中学校）
「正多角形の回転移動とその中心について」
- ⑦ 土屋次男（長野市立東北中学校）
「五感を通して感じ、考え、発見し、自分と自然のつながりを実感する理科学習」
- ⑧ 小笠原重光（長野市立裾花中学校）
「仲間とかかわりながら運動の楽しさを深めていく学習のあり方―個人種目（陸上競技）の集団化を通して―」
- ⑨ 畑邦弘（長野市立裾花中学校）
「豊かな出あいとかかわりを通して、思いやりの心を育む道徳教育」
- ⑩ 経沢潤子（下諏訪町立下諏訪南小学校）
「地域の人々との関わりの中で育つ子ども達」

研究補助助成の研究について

長野市立真島小学校教諭（第三十二回生）
宮坂久美子

信州大学では、国語科に在籍していた私ですが、縁あって小学校の英語活動について研究しています。小学校では身近なもの名前を英語で言ってみたり、カードを使って様々なカードゲームをしたり英語の歌を歌ってみたりといったものが一般的な英語活動です。小学生はこのような活動を大変喜んで行います。しかし、小学校の英語活動で大切なのは、英語を使つての友だちと簡単な会話を通して、子どもたちのコミュニケーションの力を伸ばすことです。たとえば「こんにちは。はじめまして。」の挨拶をし合う。持ち物を持っているか聞く。好きなものを尋ねる。電話番号を聞く。日本語ではぶつかりほうになりそうな会話も英語で行うと、相手を思いやった、丁寧な会話になるのです。

英語を使うことで学級の子どもたちがより笑顔で学習できたり、友だちの新しい一面を発見したり、温かい接し方ができたりすることがわかってきました。また、コミュニケーションの楽しさを感じることができました。

英語必修化が視野に入ってきた今日、小学校英語の教材や書籍も豊富になってきています。研究補助で新たな参考文献を購入することができました。今年度は年間を通した英語活動を総合的な学習で行っていきたいと思っています。月ごとに単元を組み、一年間で三十時間を目標に研究を深めていくつもりです。



就職状況

就職部長 中村浩志

昨年度より従来の学生委員会と就職委員会が統合された「学生・就職部会」が発足したが、今年度から学生部会と就職部会に再び分かれることになった。両部会では仕事の内容が異なり、学部にとって就職問題はますます重要性が増してきているという認識に立ちかえったからである。

今年三月の学部卒業生および教育学研究科修了生の進路状況を下の表に示した。学部卒業生二九五名のうち、教員就職者が五四・九%、教員以外就職者二二・四%、進学者一二・二%であった。その内、非教員養成系を除いた教員養成課程卒業生二三八名の教員就職率は六三・五%で、昨年の六一・六%よりやや改善した。

学部卒業生の教員就職率は、平成九年度の四三・六%を最低にその後増加し、平成十四年度には全国の教員養成系大学・学部の中でトップの六九・二%であったが、その後は減少に転じている。最近の教員就職率低下の主な原因は、長野県の教員退職者数の減少に由来する。団塊の世代が退職を向かえ、東京、大阪、名古屋などの大都市、また多くの県では教員採用数が増加しているが、長野県の場合には退職者数が増加するのは、平成二十一年度以後である。そのため、就職部会では、長野県の教員採用のみにこだわらず、出身県など複数の教員採用試験を受けるように学生を指導している。信州大学が独立法人化して三年目を迎え、教員就職率の向上と共に質の高い教員の養成がますます期待されている。就職部会では、教員に限らず多くの卒業生が自分にあつた職に就職できるように、模擬面接試験の実施、就職ガイダンス等を通し、就職の指導を一層強めて行きたいと考えている。卒業生の皆様の一層のご支援をよろしく願ひいたします。

平成18年度卒業生・修了生 進路状況

Table with columns for '就職・進学別' (Employment/Advanced Study), '就 職 者' (Employees), '進 学 者' (Advanced Students), and '合 計' (Total). Rows include various departments like '臨床学校教育' and '総合・生活科教育'.

(注) () は臨採で内数、○は外国人留学生で内数

就職率(学部) 88.03% (進学者を除く)
教員就職率(学部) 62.55% (進学者を除く)
教員養成課程卒業生に対する教員就職率 63.45%

信州大学教育学部同窓会

第二十回通常総会(通知)

日時
平成19年8月11日(土)
午前10時より

会場
長野市岡田町「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事
第一号議案 平成18年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について
第二号議案 平成19年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
第三号議案 役員の改選(第11期)
6. 来賓祝辞・代表挨拶
7. 閉会宣言

記念講演会: 12時より
講 師: 原昌義氏

祝賀懇親会: 13時より

記念講演(一般公開)

NHK大河ドラマ

「風林火山」と松代町

「表面には出てこないその時代劇性」



原美術館(平塚市) 副館長
原 昌義 氏

今年、NHKの大河ドラマに山本勘助が取り上げられました。「エコーロード・まつしろ」と重なり、長野市松代町が一躍脚光を浴びています。

この放映に至る過程には、史実をもとに紐解きながら生まれた原作があり、そして視聴者を意識した脚本へと進む中で、妙に誇張されたり、時に「これは本当かなあ」と首を傾げたくなる部分も生まれてきます。

長野市松代町に生まれ、長野県学校教員を定年退職して二十年。師範学校時代は化学を専攻しながら

ら、ほとんどその方面からは離れた方向に行っていました。退職後、地元のグループへの歴史の話や、多くの仲間と一緒に文化財関係の研究を兼ねながら今日まで続けてきました。

たどってみれば、「原美濃守虎胤」から数えて十五代目。武田信玄の時代には甲斐の国にいた原一族(現在TVで穴戸開が原美濃守虎胤を熱演中)が、信玄亡き後真田家と行動を共にし、その後真田家の松代移封により松代町に移り住み、現在に至っています。

原家の歴史から松代の歴史等調べていく中で、変わらぬ時代劇から離れられない日本であるように思えてきます。文化財に対する考え方にも、もっと幅の広い物が欲しいようにも思います。国境というものを見たことのない日本人の負の部分を確認すべき時に来ているように思います。時代劇に触れるたびに思うことがあります。

経歴

一九二六年 長野市松代町に生まれる
一九四九年 長野県師範学校本科卒業

一九八五年 長野市立川中島小学校長
一九八七年〜二〇〇七年

長野市立博物館協議会長・松代藩文化施設管理委員長・千音都市カチュウシヤの唄副会長・原美術館副館長 他

事務局便り

○研究補助受付中

教育研究補助申請を四月より受け付けております。多くの皆様の申請をお待ちしております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。

○住所変更を忘れずに

転居の際には住所変更の届を事務局宛にお願い致します。お送りした会報が宛先不明で多く戻ってまいります。メールでも結構です。

○会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。

同窓会の会費は終身会費です。会報が夏の総会前(七月)にお手元に届いた方は納入済みです。二重払いされた会費はお返ししますが、振り込み手数料等が引かれますので全額返金できません。

事務局連絡先

電話 026-238-4370
月・水・金 9:30~16:30
http://taaedu.shinshu-u.ac.jp
Email: kdousou@gipnc.shinshu-u.ac.jp

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加くださいようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。